

[ガバナー補佐からのメッセージ] IMの将来について

IM第7組 ガバナー補佐

杉浦敬久 (大阪船場RC)



早いものでガバナー補佐を指名されてからもう2年を経過した。エレクトの時は地区と各クラブとの連絡係位かと軽く考えていたのが大違いで、補佐が始まると重要な仕事があった。

まずガバナー公式訪問の2週間前に7組、10クラブを訪問し、会長幹事との面接や、クラブ協議会を通じて特色や問題点を聞き出し、福家ガバナーにレポートを提出するところから始まる。

第2回目以降は年度活動計画や実施状況を聞かせて頂き、RI会長や、ガバナー方針に沿っているか確認をしたり、地区に対しての質問や要望を承り、出来るだけ即答をしながら相互の理解を深めた。

そして、年間4回ほど会長会や幹事会を行い、各クラブの持つ悩みや対策を情報交換しながらクラブ間の連帯意識を醸成した。そして地区におけるRCの認知度を高めるための地域社会奉仕や震災復興支援などの共同事業を進めてきた。

さてIM(インターシティミーティング)7組の立場

は広域の「都市間相互の連合体」ではなく「ビジネス街の町内会」の性格が強い。なぜならば、例会場が北区のホテルで2クラブ、中央区で8クラブと限られたエリアで毎日開催されているし、大半の会員は職と住が別である。

このような都市型のクラブ運営では、他地区で見られる広域型のIMと違った青写真が描けないものだろうか。今日まで行われてきたIMは第2660地区の大会ミニチュア版のようにも思える。もっと7組会員の「研修と親睦」から発展して、地域密着の「奉仕とお祭」をコンセプトにして第7組10クラブの会員、家族、地域の人達や米山奨学生・ローターアクター等の若い力を結集すれば素晴らしい何かが生まれてくると確信する。

幸いこの地域には大阪の中心部に位置するので歴史や史跡・ビジネス街・有名ブランド店・飲食や娯楽の繁華街等の舞台装置が揃っている。あとはロータリーらしさを出した、素晴らしいプランが出来ればIM第7組の将来は明るい。